

会議録

| | |
|-------|---|
| 会議の名称 | 社会教育委員の会議（3月定例会）会議録 |
| 開催日時 | 平成22年3月19日（金曜日）14時00分から16時00分まで |
| 開催場所 | 保谷庁舎3階第2会議室 |
| 出席者 | 委員：小川議長、濱崎副議長、倉島委員、齋藤委員、白木委員、須永委員、松嶋委員、宮崎委員（五十音順） （欠席）岡村委員、高谷委員、本田委員、本領委員、山田委員 事務局：神田主査 |
| 議題 | (1) 今期の活動計画について (2) 報告、その他 |
| 配布資料 | 1 平成22年度社会教育委員の会議日程一覧 2 菅平少年自然の家の今後のあり方について（平成22年2月 西東京市菅平少年自然の家検討委員会） 参考資料 第41回関東甲信越静社会教育研究大会関係資料（抜粋） みんなの生涯学習 No. 99 |
| 記録方法 | <input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録 |
| 会議内容 | |

平成22年2月定例会議の会議録を確認後、承認する。

(1) 今期の活動計画について

主な意見等

○委員：

これまで、今期の活動テーマとして、「青少年の居場所」、「公民館・図書館などの社会教育施設」、「学校施設開放」などいろいろが出されたと思うが、他の部署でも検討できる内容なのではないか。社会教育委員として取り組む内容としては、「成人教育と地域」というテーマで考えていったら良いのではないかと思う。

○委員：

成人の文化教養を深める活動は地域で活発に行われていると思う。その中のこういった活動を地域づくりに結びつけていけば良いのだろうか。

○委員：

地域を作っていくとよく言うが、どうやっていけば良いのか分からない、地域の資源を活用するといっても地域のことも良く分かっていないというのが現状だろう。社会教育委員としては、地域と関わっていくための社会教育活動をどう展開していけばいいのか、そのための連携やネットワークづくりの方法はどうあったら良いのかといった事を考えていくことが必要だろう。

○委員：

社会教育は成人よりも子どもに重点が置かれている感じがする。

○委員：

国や都が成人教育、市町村は学校外の青少年の活動を中心に施策を整えていた傾向にあったと思う。

○委員：

菅平少年自然の家を廃止した場合には、その後の青少年健全育成をどうしていくのかということを考えていくこともできると思う。

○委員：

今年度は第4ブロック研修会の当番市なのでそのテーマと合わせて考えた場合には、他市とも共有できるテーマ設定が良いと思う。

○委員：

地域で活動している人材としては、民生委員の人たちがいると思うが、その人たちが地域とどう関わっているかわからない。

○委員：

地域の安全安心に関する防犯会議が3ヶ月に1回地域で開催されるが、その会議には民生・児童委員、育成会などが参加している。登校中も民生・児童委員が通学路に立ったり

して、地域の子どもを守り支えていくという地域活動をしている。また、社会福祉協議会でやっているふれまの「しらうめニュース」で地域の活動が周知されている。

○委員：

地域活動の状況は地域間格差がある。自治会組織がある地域とない地域では状況が違うと思う。地域に自治会を作る事を考えていく必要もあるのではないか。

○委員：

自治会は減少しており、残っているところも回覧版をまわすだけという状況のようだ。地域のつながりが無い。

○委員：

地域での活動やつながりが無いと次世代に継承していくものが地域にない状況になるだろう。

○委員：

地域づくりと社会教育活動との関係をどう考えるかということだが、地域課題を教育の立場から解決していくような社会教育活動を展開する事で、地域をつくり、変えていく事ができるのではないだろうか。検討の方向としては、防犯、安全防災など今ある地域課題に注目し、その現状を洗い出し、何ができて何ができていないか、社会教育として何ができるのかを考えていったらどうだろうか。

○委員：

子育て中は学校を通じて地域と関わることができているが、子育てを終わった人はどういう形で地域と関わっていただけるのだろうか。そういった世代の人たちが地域とどうつながっていけばいいのだろうか。

○委員：

そういう人たちに地域活動に関わってもらいたいと思う。地域デビューのようなきっかけづくりが必要だろう。

○委員：

ホストファミリーなど市民がやっている活動があるが、そういった活動が学校や市の活動とつながっていない。企業と学校をつなぐ、学校と地域の人をつなぐといった地域活動のコーディネーターの存在が必要ではないか。

○委員：

小中学校の選択制度が導入されたことで、学校区と地域の捉え方が難しくなっている面もあると思う。

○委員：

市内には、多くの人材や活動がある。そういった人材や活動を掘りおこして、いろいろな活動に参加してもらおう機会を充実させていくことが大切ではないか。

○委員：

市では高齢者対象の事業を実施しているのか。

○事務局：

高齢者支援課で高齢者大学、公民館で田無カレッジなどが実施されている。

○委員：

大人の親力を高めるためにも、地域に関わる事が大切だろう。子どもだけではなく、大人も人や地域と関わっていかないと力がついていかないのではないだろうか。

確認事項

- ・今回の会議での確認として、今期の活動テーマは、「全員参加の地域づくりをめざして」とする。
- ・次回会議でこのテーマでよいか最終確認し、今後の検討の進め方の方法について検討する。
- ・正副議長、白木委員、事務局で今後の進め方について検討し、次回提案する。

(2) 報告、その他

1. 平成22年度都市社連協総会の参加について

- ・日時 4月17日（土曜日）午後1時から
- ・場所 東久留米市立生涯学習センター
- ・参加予定 小川委員、須永委員

2. 第41回関東甲信越静社会教育研究大会の開催について

○事務局：

「第41回関東甲信越静社会教育研究大会関係資料（抜粋）」のとおり実施されるので、参加の予定をお願いします。また詳細は決まり次第報告します。

- ・日時 11月26日（金曜日）から27日（土曜日）
- ・場所 杉並区社会教育センター

3. 菅平少年自然の家の今後のあり方について

○事務局：

2月に西東京市菅平少年自然の家検討委員会より「菅平少年自然の家の今後のあり方について」のまとめが出された。今後このまとめの結論を踏まえてすすめていくことになる。また経過については随時報告します。

○議長：

以上で本日の社会教育委員の会議（3月定例会）は終了する。

※次回会議 平成22年4月16日（金曜日）午後2時から